

# 南風とともに

つながりと成長をとおして  
だれもが幸せを感じる学校づくり

文責：校長 大平 啓二

人権とは・・・

十二月十日の人権の日、「人権集会を実施しました。詳細は中段を読んでいただければと思います。校長の話では、私が子どもたちに次の三點を伝えました。

①人権とは、身近なこと。自分を大切にすること、同じように友達や周りの人を大切にすること。

②人権を守る第一歩は、言葉を大切にすること。「ありがとう」や「大丈夫?」「一緒に遊ぼう」等、人を励まし、勇気づける言葉をプレゼントしよう。反対に悪口や荒れた言葉は、石ころのようなもので簡単に投げつけ、人を傷つける。言葉の石ころは手放し、優しく、悪口や暴言を放つ時は、顔も険しい。言葉の使い方一つで心が育つ。

第十九回南島原市人権標語「ンクール  
高学年の部【最優秀賞】六年 大野胡十さん  
「思いやり だんだん広がる 笑顔の輪」  
低学年の部【努力賞】二年 宮崎朝光さん  
「やさしいね きみの心は 行動に」



六 閉式の言葉（六年生）  
★人権風船飛ばし

「ともだちはいいもんだ」といっています。「ひとりはみんなのために みんなはひとりのために」といっています。

三二 開式の言葉（六年生）  
校長先生の話  
人権擁護委員の方の話  
紙芝居「春一番」

四 人権なかよし宣誓  
五 合唱

「ともだちはいいもんだ」といっています。



子どもたちの声①  
先日、校長室に一年生の「ありがとう」がいります」という大きな声が廊下から聞こえてきました。廊下に出てみると、廊下周辺の整理や掃除をしてくださっていた学校支援員の吉田さんに対して、一年生の子どもたちが口々に「廊下をきれいにしてくださいありがとうございます」「うれしいです」「いつもありがとうございます」と声をかけていました。声をかけられた吉田さんも、声をかけていた子どもたちも、そして周りにいた職員まで、笑顔が広がる素敵な瞬間でした。

## 子どもたちの声②

持久走大会の試走の日のことでした。走り終わった高学年の男子が、教頭先生に近づいてきて、「速く走る「ツは何ですか。」と聞いてきたのです。どんな子どもを思い浮かべますか。その子どもは、決して足が速く新記録をねらうタイプではなく、試走前は、順位を心配していた子どもだったのです。真っ直ぐな眼差しで真剣に聞いていた姿に感動しました。教頭先生も、その子どもの本気に応えようと丁寧に教えていました。

本番、その子どもの力走に本気のチャレンジが強い心を育てる瞬間を見ることができました。持久走大会について裏面にも紹介しています。是非、ご覧ください



裏面に続きます。

## 「ありがとう」「やればできる」

## 【持久走大会】 強い心を育てる本気チャレンジ

十一月から始まつた朝のマラソン期間から、子どもたちは真剣に取り組みました。まさに、「強い心を育てる本気チャレンジ」そのものの姿でした。目標にするのは、友達、そして自分の記録です。何よりライバルは自分自身です。参加した一人一人が力を出し切る姿を見せてくれました。保護者や地域の方の大きな声援が、子どもたちの背中を押したのだと考えます。また、コース上の誘導係等、安全面での協力もありがとうございました。



## 【人権風船打ち上げ】 届け 人を大切にする思い 青空へ まだ出会つていな誰かのもとへ

今年は、南島原市人権擁護委員の方々や関係者の皆様二十名がご協力してくださり、人権の風船打ち上げを実施しました。本年度は、口之津小・加津佐小・野田小の三校での実施でした。風船には、野田つ子が育てたひまわりの種とメッセージを添えたカードをつけています。私の経験では、風に乗つて、熊本県や大分県まで届きます。今回も青空高く上がつていきました。



◆詩「ひとつのことば」から一部抜粋

ひとつのことばで  
けんかして  
ひとつのことばで  
なかなおり  
ひとつのことばで  
頭が下がり  
ひとつのことばで  
心がいたむ  
ひとつのことばで  
楽しく笑い  
ひとつのことばで  
ながされる

ひとつのことばは  
それれにひとつのことばをもつてこら  
ひとつのことばをたいせつに

